

Y-PAC journal vol.8 ネガティブサインは必要か？

Text by yoichi koizumi

「駐輪禁止」「禁煙」「ポイ捨て禁止」「飲食物持ち込み厳禁」・・・このような、人間の行動を制限・禁止するサインが街なかにはあふれている。普段は気に留めないかもしれないが、探してみると結構いろいろなところで目にする。これらのサインは街をより良くしようと意図されているが、それ自身が街の美観を損ねている場合が少なくない。こういった否定的な内容の標識や張り紙を、僕は「ネガティブサイン」と呼ぶことにした。このネガティブサイン、本当にこんなにも生活に氾濫していいのだろうか？

例えば「駐輪禁止」のサインだが、簡単な張り紙からペーブルメントにしっかりとペイントしてあるものまでいろいろな形で展開されていて、駐輪自転車が通行などの邪魔にならないようにと無断駐輪を阻止している。しかしそれでも必要な場所に必要規模の無料駐輪場がなければやはり自転車が止められ続けるわけで、駐輪禁止のサインと駐輪自転車がどちらもゆずらず見た目にもゴチャゴチャだ。僕も主に自転車で移動しているので、撤去されないような駐輪場所には頭を悩まされる。駅前などには定期の有料駐輪場などしかなく、無料で安全に止められるところなど都会にはほとんどない。環境問題をあげるまでもなく、自転車はクリーンな乗り物であり、政府や自治体はCO2を減らしたいなら自転車環境を整えるべきだと思う。赤文字で大きく「禁止」などと書かれたサインを見て気分がよくなる人など誰もいないだろう。それよりは邪魔にならない場所に美しく駐輪できる場所を提供したほうがずっといい。高松市内の再生に成功した商店街では地下に大規模な駐輪場を作り、自転車だけが地上から自動で格納されるようなシステムを採用しているようだ。これなら歩道を自転車が埋め尽くすこともないし、不必要なネガティブサインで街並みを乱さなくても済む。

駐輪の例ばかり書いたけれども、多くの場合もう一度デザインし直せば違うやり方で問題を解決できるはずだ。まずは否定的な言葉をポジティブな言葉に直す、というのが手軽だと思う。例えばコンビニのトイレなどで書いてある「いつもきれいにお使いいただきありがとうございます」という文句は、「汚したら罰金」とか書いてあるよりも気分がいいし、はるかに効果的だ。僕たちデザイナーとしてできることは、ピクトグラムなどのサイン計画で誰にでもわかるように誘導するとか、美しく実用的な駐輪台をデザインすることなどだろう。タバコにしても「禁煙」と掲げるよりも、落ち着いていて快適な喫煙所があれば自然とそちらを選ぶと思う。

実際に禁止を大きくアピールしなくてはいけないような、安全に関わるものもある。そういったものは無くせないにしても、世の中もう少し頭をヒネれば、見る人をネガティブな気持ちにさせなくて済む。一般の店主や市民の人たちは素直に、してほしくないことを張り紙にしまいがちだと思う。せっかく店先をきれいに掃除して飾り立てても、「禁止」と張りまくってあれば台無しだ。こういった問題は小さなことだと思う。しかしデザインをする人間がそういう小さなところにも考えを巡らすだけでも、もしかしたらもっと良い街づくりができるのかもしれない。

October 2, 2008